

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -----)

事業所番号	0673200309		
法人名	社会福祉法人 幾久栄会		
事業所名	グループホーム こうらく		
所在地	山形県酒田市小泉字前田44		
自己評価作成日	令和 3年 2月 8日	開設年月日	平成 15年 2月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同敷地内にある福祉施設と協力関係にあり、防災や行事とのサービスの共有が出来ます。
 ・医療機関が隣接しており、訪問診療をはじめ、受診・緊急時の医療面での対応が充実しています。
 ・余暇支援の充実し力を入れ、午前の体操、午後のレクリエーション、夕方の趣味活動と、楽しんで過ごせる時間を作っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3年 3月 1日	評価結果決定日	令和 3年 3月 10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年9月の事業所再開であり、利用者の顔ぶれも職員も変わっているが、法人の福祉の経験を活かし、従前の事業所のように安定し、落ち着きを見せている。コロナ感染症防止のため、様々な制約がある中、面会の方法や外出支援では工夫が見られ利用者の笑顔につながるよう努力している。職員育成では職員の目標設定からの自己評価、上司からの指導、法人による研修計画等が確立され、職員のスキルやサービスの質の向上につながっている。介護計画も一人ひとりの出来ることを大切に「その人らしさを大切に笑顔が見られる居心地よい暮らし」を支援する計画の作成に努力されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、玄関とホールに掲示し毎週月曜日の申し送り時に職員で唱和している。9月の再開時に理念の内容について話をする機会があり、念頭に置いて日々の実践を行っている。	法人の理念である「思いを大切にしその人らしく生活」を支援することを基に、「地域との触れ合いを大切にその人らしい笑顔が見られる生活」の支援を事業所の理念として掲げている。職員は毎週普段のケアを振り返りながら、理念の確認を行い実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナの感染防止のため、地域交流は出来なかった。	昨年9月から事業を再開しているが、感染症防止のため地域交流は止まったままである。従前は地域の行事への参加や文化祭、公民館、図書館、買い物等に出かけ、小学生との交流や地域のボランティアの来訪等様々な交流の機会があった。今後、感染症流行の状況を見ながら地域との交流を再開し拡大していくこととしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人広報誌「こうらく」に、事業所の日常生活の様子を掲載し、事業所の特性を知ってもらうとともに、認知症の理解を図っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度9月に事業再開し、運営推進会議は10、1、3月の3回の開催予定である。取組みの実態や今後の計画などを報告し、意見交換を行ないサービスの向上につなげている。	9月事業再開と共に推進会議も始められ、市職員、民生委員、包括職員等必要なメンバーと2か月に1回開催されている。1月は感染症防止のため書面による開催であったが、各委員に文書で意見等をいただき、サービスの向上につなげている。会議では、事業計画や避難訓練の成果、事故事例等が報告され様々な意見等を頂き双方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業再開に際し、市の担当職員と連絡を取り合っている。	運営推進会議への参加により、事業所の状況等が報告されている。利用者にかかわる具体的な問題等は、窓口と連絡を取り合い、問題解決に向け協力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人の内部研修会を通して、身体拘束の弊害について理解を深めている。玄関入り口は自動ドアになっているが、ホールから玄関に行くセンサーが鳴る仕組みになっている為、利用者が外に出たい様子があれば職員が同行できるようにしている。</p>	<p>身体拘束廃止のための指針を作成し、研修が行われ職員に周知している。法人の身体拘束廃止委員会が3か月ごと開催されケアの振り返りが行われている。事業所では定例会で、事故事例を基に勉強会を行い、その中で見守や声掛けの方法を検討し日々のケアに活かしている。職員は、相互に意思疎通を図りながら、利用者に寄り添い、危険につながる行為を未然に防止し、安全に過ごせるよう工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の内部研修の他、事業所の定例会においても虐待防止の勉強会を行っている。動画をもとに意見交換を行い、スピーチロックが日常で使われていないか、振り返りを行った。また現場で小さな気付きにも職員同士が注意しあえるように取り組んでいる。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活支援事業や成年後見制度の資料を閲覧できるように整備している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>9月の事業再開で入居者9名の契約締結を行っている。重要事項に基づいた説明を行い、理解を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見要望の受付箱を設置している。またご家族面会時にも利用者の様子を詳しく伝え、意見や要望を聞くようにしている。1月に満足度調査(アンケート)を行い、寄せられた結果を定例会で話し合い運営推進会議の際に報告する。</p>	<p>事業所再開後1月に満足度調査が行われ、その結果が検討されている。日常生活の様子や状況の変化、利用者の要望などを毎月家族へ報告するとともに、意見等をいただけるよう積極的に話掛け意見等表しやすい関係を大切にしている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>事業所の定例会議の際、事業計画や年間計画、年間予算等について報告している。改善が必要な内容について職員の意見を聞き、定例会議等で検討を加えている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で年に2回、目標を立て達成できているか自己評価する機会を設けている。管理者は努力や実績を把握し評価することで、職員が向上心を持ち仕事に取り組めるような環境を作っている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はキャリアパス制度を導入し、経験年数に応じたスキルアップの内容の研修を行っている。定例会の中に研修を入れる等スキルアップできる環境を作っている。	年2回、職員が目標を設定し自己評価を行い、上司等が評価指導することで働きながらスキルを向上させる環境を作っている。法人による、職責や経験に応じた学ぶ機会が作られている他、事業所でも定例会で事業所の実状に応じた学びの場が作られている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は新型コロナの感染防止のため、他施設との交流する機会が無かった。	事業所再開後、特に事業はなかったが、グループホーム連絡協議会との関係を継続し学びの場や交流の場として大切にしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、慣れない環境での生活を始めるにあたって本人に不安なことや、要望の聞き取りを行なった。また生活の中で感じている不安にも都度対応し、傾聴する時間を作る事で不安の軽減につなげている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたって家族の要望と不安に思っていることを聞いたうえで、職員の連携の取り方を確認し対応している。新型コロナで面会が十分に出来ない為利用者の様子を具体的に伝えるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当のケアマネージャーを通じて、家族の要望や以前のサービスの特性などを考慮し、本人に合った支援方法を検討し対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力に合った手伝いを依頼し、共に支えあえる関係作りに努めている。毎日の掃除や洗濯物、テーブル拭きや食器の下膳など、日々の細かな仕事を共に行い感謝しあう事で、良い関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子や、状況の変化、利用者の要望など、毎月定期的に家族へ報告している。その際、家族からの要望や意見を聞くことで、協力しながら支えていく体制を目指している。現在リモート面会が出来るように環境整備を行なっている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響もあり十分には行う事が出来ないが、家族の協力で、親類などの電話連絡などを行っている。また住んでいた地域の情報を伝えるようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、それぞれの関係が良好になるように職員が調整役となり、お互いの関係が円滑になるように働きかけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の利用者はいなかったが、そういった場合の相談や支援を行える体制を整えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者との会話などの関わりを通じて、本人の思いや意見を聞き取るように努めている。また、ご家族の意向も反映させながら、可能な限り本人の意向に沿うように生活が送れるように検討している。	職員は普段の関りの中で利用者との会話や表情、しぐさから意向を把握するよう努めている。職員の気づき等を定例会で話し合い、本人本位に検討され、ケアにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や面会時など、本人やご家族よりこれまでの生活歴や暮らし方などの情報を得ている。また、日常生活の中で、どのように過ごしてきたか等の会話を引き出すように話題を提供し、把握できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回の定例会で心身の状態の確認を行っている。利用者一人一人の生活の中で普段と違う行動や状況が見られた場合は、ケース記録への入力や申し送りノートへの記載し、職員間で情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当職員が毎月、計画作成担当者が定期的に行っている。職員と関係者で利用者の思いや現状を把握し、課題やケアの内容について話し合い、意見やアイデアを反映し、ご家族の意向も取り入れながら、検討し、介護計画を作成している。	モニタリングは職員が毎月行い計画作成担当者が定期的にサービスの実施状況の確認と評価が行われ6か月ごと計画を見直すこととしている。計画は定例会で話され、職員や家族の意見を取り入れながら見直されている。介護計画は利用者それぞれの今出来ることを続けて楽しく生活が出来るよう、暮らしの支援を大切に作られている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容について、ケース入力を行ったり申し送りノートへ記載したり、情報の共有を図っている。生活の中で変化があった時には、職員間で申し送りをを行い、その結果をケア内容や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館より本を借りて、職員が読み聞かせをしている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族に希望を聞き訪問診察委託医を主治医としている。月に1回の訪問診察では医師に家族の希望を伝えて、診察の結果も報告している。受診・通院は家族が付き添いをするが、緊急時や家族の都合により職員が付き添う事もある。	嘱託医がかかりつけ医になっており、月1回の訪問診察が行われ、家族の医療にかかる安心につながっている。専門医への通院は家族が付き添いしているが状況に応じて職員も同伴している。受診の際は、バイタルや心身の状況を記載した上申カードを持参し診察に役立てられている。受診結果等は介護記録と業務日誌に記録され職員や家族との情報共有や日々のケアに活かされている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>敷地内の同法人施設の看護師に、身体の状況を伝え、適切な指示を受けることが出来る。また隣接する主治医のクリニックに直ぐに相談することができ、受診など早急な対応が出来る。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、家族や医療機関の連携室との連絡を密に行っている。退院後の状態の変化などの情報を受ける事で、受け入れ態勢を整えることができています。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に急変時の希望する対処について話し合いを行っている。また状態の変化により施設での看取りについても説明をし、主治医と家族ととも十分な話し合いを行う体制を整えている。</p>	<p>契約時から重度化や見取りの方針が話しされ、状況の変化に応じ繰り返し話し合いの場を持ち方針の共有が図れるよう取り組んでいる。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内の内部研修で、AEDを使った急変時の対応を小グループで実践演習を行っている。また定例会で実際に起きたひやりはっや、事故を振り返り検証を行い、実際の動きを確認している。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度は法人の避難訓練とグループホーム独自の訓練と合わせ3回予定し実施している。また避難経路や避難方法を明確にし地域の協力者にも理解しやすいように整備している。</p>	<p>法人による避難訓練と事業所独自の避難訓練が行われている。事業所再開後はすでに2回、火災対策と地震対策として行われている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守りながら、利用者に対してプライドやプライバシーを傷つけない言葉掛けや対応を日々気を付けて行っている。	プライバシーの保護や権利擁護等は法人による研修で周知されている。事業所では定例会で、スピーチロックや言葉かけなどについて学びの機会を作るとともに、不適切な対応が見られる場合はその都度管理者や主任が注意し適切な対応を心がけている		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で自己決定できる言葉かけを常に行っている。飲み物の種類、食事の量、日中の過ごし方、着衣の選別など職員が希望を聞き、一緒に考えながら決定できるようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中も居室で休んで過ごしたいなど、本人のペースや希望に合わせて過ごしてもらっている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や面会が出来ず、散髪や毛染めはなかなかできなかったが、季節にあった衣類を一緒に選んだり、本人の希望で化粧品の購入などの支援を行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁の野菜を切って貰ったりしている。また月に1回以上お楽しみ献立として、入居者と一緒に作ったり、バイキング形式で好きな具材を選んで食べる食事を提供している。	ごはんのみそ汁は事業所内で調理し、おかず類は併設施設の厨房で調理されたものを事業所で盛り付けて提供している。お楽しみ献立や、おやつ作りなど、頻繁に行い調理への楽しみも大切に行っている。誕生会や行事食などイベントとしての食事も企画し、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯と味噌汁をグループホームで作製、副食は法人の調理からの提供である。主治医や栄養士の指示を仰ぎ、禁止食、塩分制限、目標水分量等の一覧表を作り、それを基に食事・水分提供を行っている。また摂取量を記録し健康管理につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯の洗浄の声掛け・介助を行っている。義歯の手入れや口腔内の観察を行い、不具合があった場合、家族と連携し歯科受診や口腔ケア用品の購入を検討し対応を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い一人一人の排泄パターンを把握し、個別に声掛け誘導が出来るようにしている。また排泄量にあった尿取りパットの検討を行い、安眠や尿漏れに対する不安解消につながっている。	介護計画に具体的な排泄支援を位置づけ、評価を繰り返しながら自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を活用し、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。定例会では尿量に対応したパットの種類などについて話し合いが行われ、快適な生活が維持できるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	在宅での排便習慣やコントロール方法を継続しながら、排便間隔や排便量を観察している。水分の摂取を促し、毎日ラジオ体操と下肢運動を行い活動量増やしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中の職員数により入浴出来ない日があるが、入浴剤を入れ色や香りを楽しんで貰えるように工夫している。季節にあわせゆず湯も実施している。身体状況に合わせてバスリフトを設置し、安全に入浴できるようにしている。	利用者の希望を尊重し支援している。入浴剤等を活用し入浴を楽しめるよう工夫も行われている。入浴を好まない方にも、声掛けや誘導を工夫して清潔が確保できるよう支援している。身体状況に合わせてバスリフトの設置も行われ安全に入浴できるよう工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は寝間着に着替え、日中との切り替えを行えるように支援している。夕食後はホールでテレビを見て過ごし、自分で眠いタイミングで居室で休むなど個別に対応している。午睡をしない利用者には職員が寄り添いゆっくりとくつろげるように配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方時、前回処方と比較し、変更あればケース記録に明記し職員に周知している。また服薬情報をファイルにまとめ、職員が常時閲覧できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年度は共同生活に慣れる支援を中心に行っている。その中で個別の趣味や、「～したい」気持ちを聞き取り、生活の中の役割づくりや余暇支援の幅を広げている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防の為、個別の希望の外出は出来なかった。しかしみんなで紅葉見学で白糸の滝にドライブに行ったり、貰った食材(カラドリ、干柿)を敷地の庭に干すため、庭先に出る程度の外気に触れる活動は行っている。	感染予防のため従来のような外出支援はできなかったが、車窓からの紅葉見学など工夫を凝らしている。敷地内での外気浴は天候等を見ながら行われている。感染状況等を見ながら従来のように地域へ出かけることや個別の外出支援等検討されている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思で所持したい方については家族と相談し少額のお金を持参している方もいる。現状新型コロナ感染予防で外出が出来ない為使う機会は無い。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族に電話をし話が出来るように支援している。現在リモート面会が出来るように設備を整えている所である。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに観葉植物を配置している。ホールには季節感のある作品を制作して掲示している。ホールは食事や作業のテーブル席とくつろぐソファ席があり自分の思い思いの席に座り過ごしている。冬はエアコンの他床暖房を点け温度設定に配慮している。	共用部分は温度や湿度が管理され、換気等も定期的に行われ快適に過ごせるよう努力している。雛人形をはじめ季節感のある飾り付けがなされ、清掃も行き届き居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファ席に座る際、好みの利用者の隣に座ったり、静かに過ごせる場所を選んだりしている。テレビを集中してみたい、洗濯たみや食材の下処理の手伝いをしたい場合はテーブル席に座っていたり、自分の思いで過ごすことが出来る。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、入居時に馴染みの家具や収納などを持ち込みことを勧めている。また家族写真を飾るなどしている。ベッドの位置や家具の配置など利用者と一緒模様替えをしたりして、快適に過ごせるように工夫している。	なじみの物の持ち込み等ができ自宅での生活からのギャップに配慮している。温度管理や換気等が行われ快適に過ごせるよう支援している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には氏名を表示しているほか、居室がわからなくなる利用者には分かりやすい飾りを付ける事で認識できる工夫をしている。廊下・ホールなど利用者の動線上障害物を無くし安全に歩行できるようにしている。			